

荒中だより

校訓 勤労 規律 礼儀

3月号

令和7年
3月3日(月)発行

紀の川市立荒川中学校 文責 椿本



MOMOたん

いよいよ卒業式…

49名の3年生の皆さん、いよいよ卒業ですね。ご卒業、おめでとうございます。3年間の中学校生活、9年間の義務教育を無事終わられること、心からお祝い申し上げます。

出会ってから、はや3年・・・緊張した表情で荒川中学校の校門をくぐったのがつい最近のように感じられます。校長として皆さんとは3年間のお付き合いでした。入学当初のあどけなさがあったみんなの明るい笑顔が懐かしいです。3年経った今、成長した姿で卒業を迎えるにあたり、毎日元気にあいさつをしてくれる姿は本当に頼もしく成長したなと日々感じさせてくれています。皆さんと毎日出会って廊下などでお話をすることを楽しみにしていました。校長として、皆さんから元気もらった3年間でした。

荒中で過ごした、この3年間・・・皆さんにとっては長かったですか、それとも短かったですか？今、振り返ってみるといろいろな思い出が浮かんでくるのではないのでしょうか。桃ジャムづくり、桃ジャム販売、体育祭、ゆるキャラづくりに取り組んだことも・・・学校運営協議会での交流、韓国西帰浦市との国際交流、りら創造芸術高校の鑑賞会、那賀地方小中音楽会への出演もありましたね。2回目となった「あらフェス」は安楽川保育園、安楽川小学校、調月小学校も招いて、3Aの「食物連鎖ショー」・3Bの「謎解きクエスト」は大盛況でした。準備作業に始まり、当日のおもてなし、アンコールへの対応等、皆さんが日頃の授業では学ぶことのできない多くのことを学ぶ機会になったと思います。本当に、いろいろな体験をして、いろいろな人から学んだ3年間だったと思います。

卒業式に向け、在校生は、卒業生の皆さんに荒川中学校での思い出を深く刻んでもらえるよう毎日準備をしてくれています。部活動でのお別れ会も始まります。後輩達に伝えたい言葉や気持ちを卒業していく先輩として言葉にして伝えてあげてください。



今年1年は、皆さんに機会がある毎に「応援してもらえる人になろう」と言い続けてきました。今年1年で少し近づけたのでしょうか。このことは、これから皆さんが自分の夢や目標に向かって進んでいく上で、とても大切なことだと思っています。なぜなら、これからは、誰かが代わりにやってくれるだろう、人にしてもらうことを期待してはいけません。自分のやるべきことを明らかにして、自分で努力してやり遂げようとする姿勢を持ち続ける。そうすれば、自ずと「応援してやろう」という人が出てくるものです。応援してもらおうと、それが自分の力となり次へのステップにつながっていくのです。

毎年最後の学校だよりで書いている言葉があります。この言葉は、先生自身が中学校を卒業する時に担任の先生が最後の学活で話してくれた言葉です。それは、「出会いで人は変わり、出会いは人を変える」という言葉です。一つの出会いは、自分を成長させてくれるチャンスです。皆さんには、これからたくさんのお会いが待っています。その一つ一つが貴重なものであり、自分を成長させてくれるきっかけとなります。一つの出会いでこれからの人生が変わることもあるのです。だからこそ「応援してもらえる」存在があれば、様々な困難にも立ち向かっていくことにつながるのです。

さあ、皆さんは人生のスタートラインに立とうとしています。どこかで、成長した皆さんの話を聞かせてもらうことを楽しみにしています。

最後に、卒業生保護者の皆様方、お子様の中学校ご卒業、心よりお祝い申し上げます。保護者の皆様には、本校教育に対して多大なるご協力ご支援いただきましたことを心よりお礼申し上げます。至らないところも多々あったかと思いますが、学校に対していつも温かく見守っていただき、また期待して頂いたことで、学校は安心して教育活動を進めることができました。改めて、ここに感謝申し上げます。卒業生並びに保護者の皆様の益々のご健康とご活躍を心からお祈り申し上げます。

令和7年3月
荒川中学校 校長 椿本雅敏

県下書初競書会中央展

特選	硬筆	1年A組	角谷 明夏さん
			和田 惟愛さん
入選	毛筆	2年B組	藤原 理子さん
	硬筆	3年B組	柏木 里緒さん
		2年A組	辻 新菜さん
		1年A組	清水 乃依さん
			山本 莉愛さん

